

文系・理系両方の知識が生かせる 「HIGOプログラム」で幅広く学ぶ

大学院医学教育部 博士課程1年

HIGOプログラム専門コース1年 穴井 茜さん

2012年4月から本学で環境保健医学、公衆衛生学を学び翌年からは「HIGOプログラム」も受講している穴井茜さん。幅広い知識と経験を身に付け、将来はアジアと九州を結んで人々が幸せに暮らす手助けをしたいと、積極的に学んでいます。



●アメリカ

「プログラム」*で学ぶ
紹介します。

交流



海外インターンシップで訪れたワシントンDCにて、HIGOプログラムの学生や先生、「世界銀行」のスタッフと写真に収まる穴井さん(前列左から3人目)。

私は英語が大好きで、将来は海外で働きたいと思っていたので、大分にある「立命館アジア太平洋大学」でアジア太平洋地域の政治や言語、社会、文化などについて学んでいました。その時のセミナーで、子宮頸がんワクチンの接種年齢を評価するため、アジア各国の学生の性行動について調査を行うなどしました。そういうことをきっかけとして、人々が幸せに暮らすためには健康であることが必要だと考えるようになり、平成24年4月、熊本大学大学院医学教育部修士課程に進学。環境保健医学、公衆衛生学を学び始めました。

文系の私がかまかこの分野に進むとは思っていませんでした。最初は苦労しました。そのような中、平成25年1月に「HIGOプログラム」

私にとって将来の目標となる、貴重な出会いとなりました。「HIGOプログラム」に入ったからこそ、このような経験ができたのだと思います。

これから4年間「HIGOプログラム」で幅広い知識と経験を積み重ねながら公衆衛生学をしっかり学び、将来はアジアと九州を結び付け、皆が健康で幸せに暮らせる手助けができる存在になりたいと思っています。

*「HIGOプログラム」とは、医学と薬学の大学院生を対象に、九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて諸課題の解決に挑戦できるグローバルなリーダーを育成するプログラムです。
URL: <http://higoprogram.org/>



昨年開催された秋入学HIGO生の歓迎会。「さまざまな宗教・文化の学生が集まるため店選びは大変ですが、せっかくなら仲良くなりたいたいから」と、穴井さんが主催。

「プログラム」が開始。ここなら私が今まで学んできた知識も生かせると思い、受講しました。昨年には海外インターンシップ制度を利用してワシントンDCに行き、「世界銀行」で公衆衛生部門に携わる日本人スタッフの方と話をする機会を得ました。金融機関の中にもそのような部署があることを知り、



International
exchange
Report
国際交流レポート
平成26年3月～5月

3 / 12

大学院社会文化科学研究科・東アジアビジネスコースが中国・長江大学、湖北文理学院を訪問(14日まで)

湖北文理学院のある襄陽(シヨウヤン)は産業開発区に承認され多くの日本企業が進出してきています。植田均教授が70人の学生を前に日本語の魅力について講演しました。

17

英国リズ大学、日本学術振興会ロンドン研究連絡センターを伊原博隆副学長(国際交流担当)が表敬訪問(18日まで)

27

ヘルスプロモーションワークショップ(タイ・バンコク)に参加(28日まで)

ASEAN 大学連合およびマヒドン大学(タイ)、独立行政法人国際交流基金が保健分野のワークショップを開催し、国立六大学からの出席者として魏長年大学院生 命科学研究部准教授が東アジア地域におけるコミュニティ活動の紹介を行いました。

4 / 4

日本語研修コース 短期留学コース開講式

日本語研修コースには5人の留学生が、短期留学コースには25人が入学しました。

世界から熊本大学へ

「HIGOプログラム」で広い視野を身に付け 薬化学でフィリピンの医療に貢献したい

大学院薬学教育部 博士前期課程1年
HIGOプログラム基礎コース1年 アリム・ネイタン・レイさん

2013年9月に来熊したフィリピン出身のネイタンさん。
「HIGOプログラム」で学びながら
新薬の開発に有用な有機化合物を合成するための
さまざまな研究をしています。



フィリピンの「アテネオデダバオ大学」では化学を幅広く研究していました。その時の恩師が、熊本大学薬学部のメリー・アン・スィコ助教の兄弟であったことから、熊本の先進的な研究についていろいろ聞くうちに、そこで学びたいという気持ちが強くなりました。化学の学十号を取得後「HIGOプログラム」の選抜試験を受け、熊大にきました。今は薬となる可能性のある化合物の合成方法の開発などを研究しています。私が所属する研究室には20人のメンバーがいますが、留学生は私1人。コミュニケーションはほとんど日本語です。研究は大変ですが、世の中に役立つ薬を作りたいたいという思いで仲間と共に化学の可能性を追究する日々は、とてもエキサイティングです。

熊本は、都会と自然が美しく調和し、また、過去と現在が交錯した魅力的な街です。さまざまな学部を持つ熊本大学は、街のあちこちにキャンパスが点在し、それ



実験準備のため、有機化合物が入ったフラスコの酸素や水蒸気を抜いた後、アルゴンガスを注入するネイタンさん。



「リーディングプログラムフォーラム2013」では、日本人学生と留学生がタッグを組みプレゼンテーション。見事優秀賞を受賞した。

それぞれ独特の雰囲気を持っているので、歴史が感じられます。私のふるさとダバオ市は、フィリピン南部の人口約145万人の都市で、どことなく熊本に似ています。街の西側には「アポ山」という活火山があり、阿蘇山に名前と雰囲気が似ていますし、生活用水も地下水を利用しています。

「HIGOプログラム」では、薬学だけでなく、ビジネスや政治、経済など、幅広く学ぶことができます。今年1月に行われた「リーディングプログラムフォーラム2013」(大阪大学主催)では、私を含めたHIGO生4人で、イスラム教徒(ムスリム)の食事のルールである「ハラール」に関するプレゼンテーションを行い、優秀賞を受賞することができました。今後も広い視野を持ちながら、薬化学の可能性を追求し、母国の保健医療の向上のために尽くしたいですね。

19 ハルビン工業大学(中国)呂曉偉調査
研究員と鄭明東副処長が来学
国際合作処の呂曉
偉調査研究員と
鄭明東副処長が
谷口学長、伊原副
学長(国際交流担
当)を表彰訪問し
ました。その後、先進マクネシウム国際
研究センターを訪問しました。



17 熊本留学生交流推進会議主催ウェル
カムパーティー
250人を超える
留学生および
日本人学生が参
加し、熊本県内の
大学サークルによ
る出し物などを
通じて親交を深めました。



12 熊大一川大環境生物技術研究セン
ター開所式
谷口学長が中国の四川大学で行われた
開所式に出席しました。KUMADAI
TOPICS(本誌19ページを参照)。



5/8 INFRAFRONTIER-I MPC
レポジットワークシopp(ヘイトツ
ミンハン)(9日
まで)

28 モンタナ州立大学(米国)表敬訪問
Waled Cruzado学長以下3人の
訪問団が谷口学
長を表敬訪問し
ました。モンタナ
州立大学とは20
年以上交流を続
けています。

